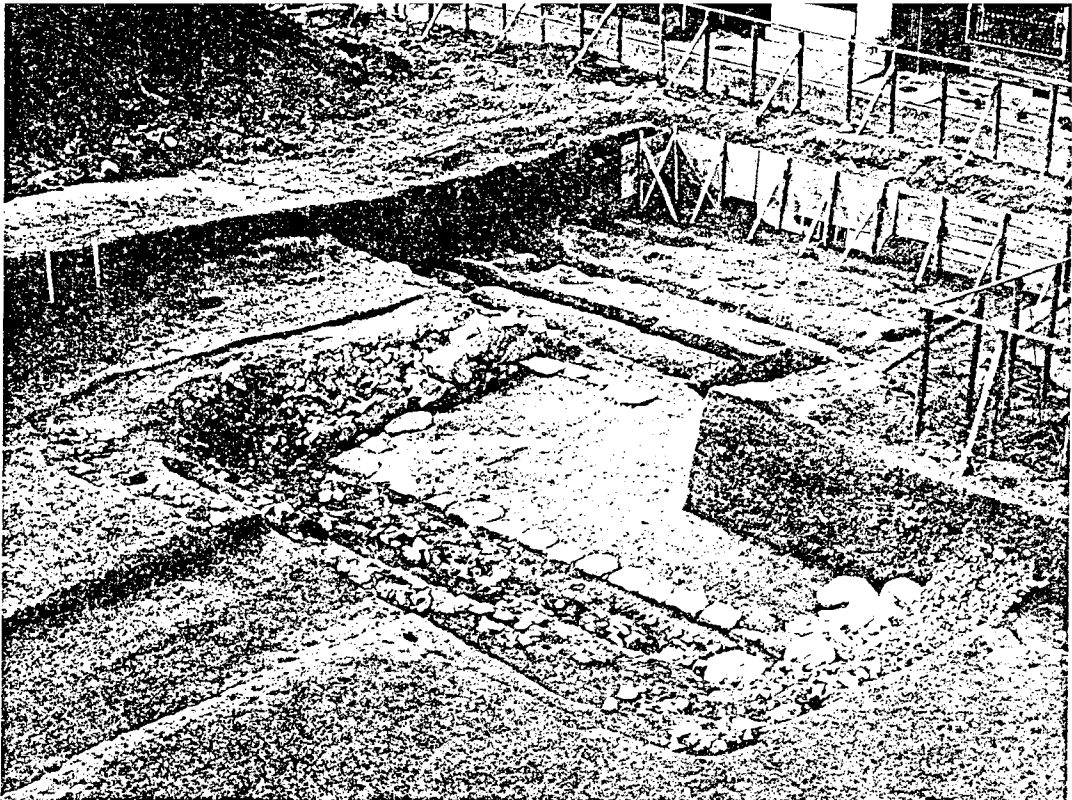


現地説明会資料

御香宮麩寺遺跡、伏見城遺跡 発掘調査



1986年2月16日 午前10時より

京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

調査地の所在は、伏見区桃山町金森出雲で、御香宮神社の西側に位置する。調査地は、縄文時代の金森出雲遺跡、奈良時代～平安時代後期とされる御香宮廃寺跡及び桃山時代～江戸時代初頭の伏見城跡等の遺跡が重複する推定地域内に位置する。当地が近い将来に宅地造成されることとなり、研究所が昨年11月～12月に試掘調査を実施した。その成果にもとずき、本年1月6日から当地の発掘調査を実施している。調査予定期間は約1ヶ月半であり、一両日中には調査を完了する。

調査成果

今回の発掘調査では、桃山時代の門址を始め、平安時代～江戸時代にわたる各種の遺構と各時代の整地土層を検出し、当地域に残る遺跡の様相の一端を明らかにすることが出来た。

古代～中世の遺構では、掘立柱建物跡、柵列跡、井戸、土壇など多数の遺構を検出した。各遺構からは、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、焼締め陶器、輸入陶磁器や瓦類などの遺物が多数出土している。これら古代～中世の遺構は、御香宮廃寺とされる遺跡に関連するものと考えられる。

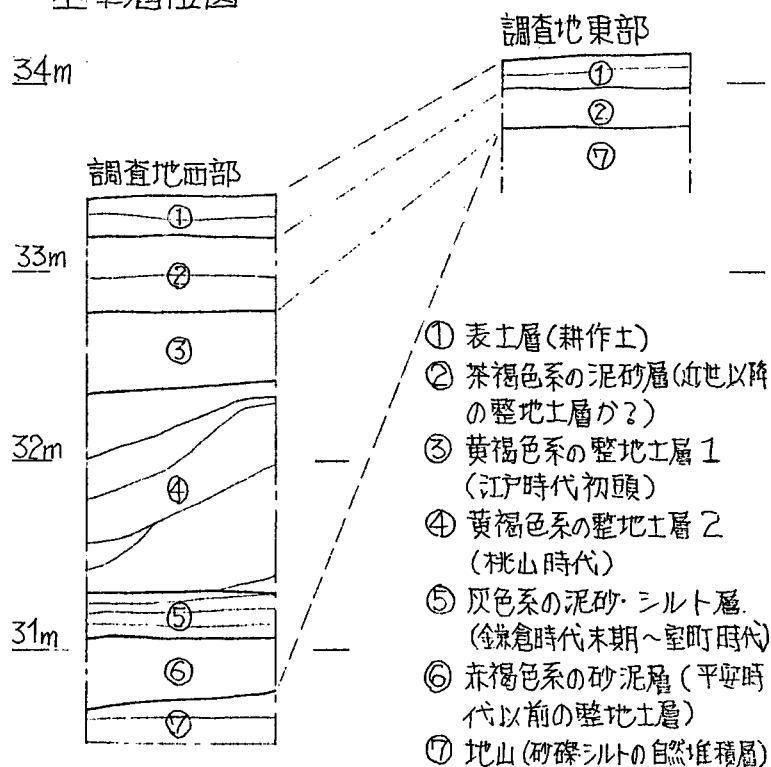
伏見城が存在した桃山時代～江戸時代初頭の遺構には、門址、井戸、溝、土壇、掘込み、ピットなどがある。これらの遺構は、調査地北西部に厚く整地土を入れて造り出した水平

平垣な遺構面上に作られており、大名屋敷の諸施設とみられる。

門址は、上部施設がほとんど残存していなかったが、門柱の礎石など基礎的な部分は、ほとんど遺存しており発掘資料としては極めて良好な状態といえる。遺存する礎石の配置などからみ、いわゆる高麗門形式の門である。この門址には、焼け瓦を含む焼土層が直接かぶっており、焼け落ちたものと見られる。

桃山時代～江戸時代の遺構からは、瀬戸・美濃、唐津、信

基本層位図

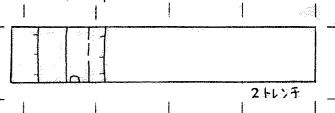
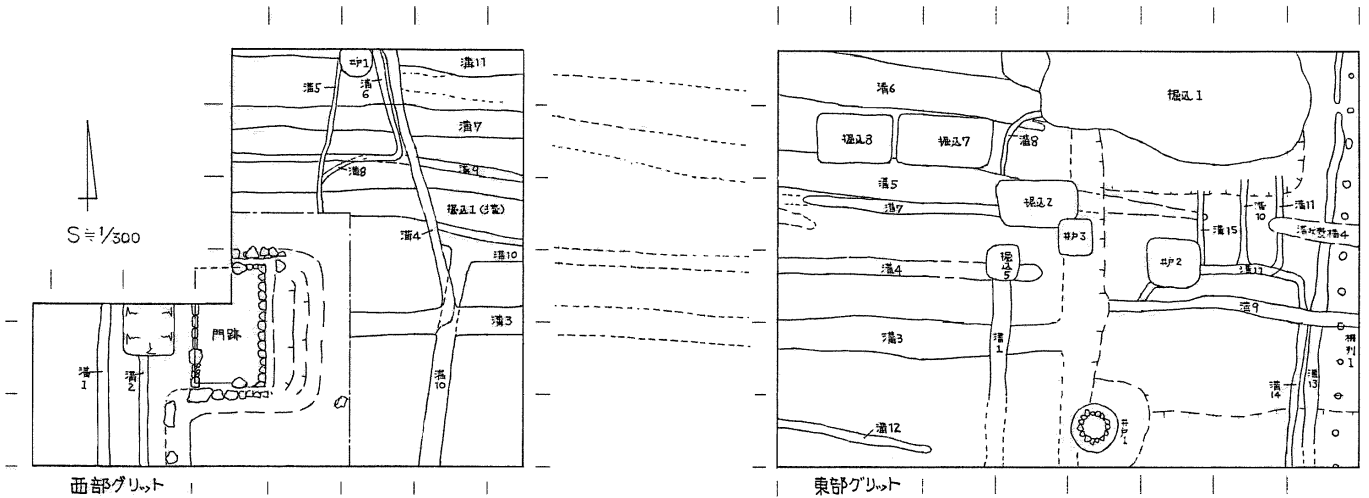
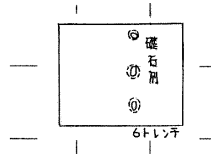


楽などの茶陶を含む国産陶磁器類、軒平瓦、軒丸瓦（金箔瓦を含む）などの瓦類、木簡（墨書のある付け札など）、漆器などの木製品、刀、小柄などの金属製品等、多数の遺物が出土している。これらの出土遺物のなかでも、掘込み1から出土した木簡類は注目される資料である。その内には「中将御覽」と判読出来るものも含まれており、木簡資料は伏見城と城下の復元を進めるうえで貴重な手がかりとなるものである。

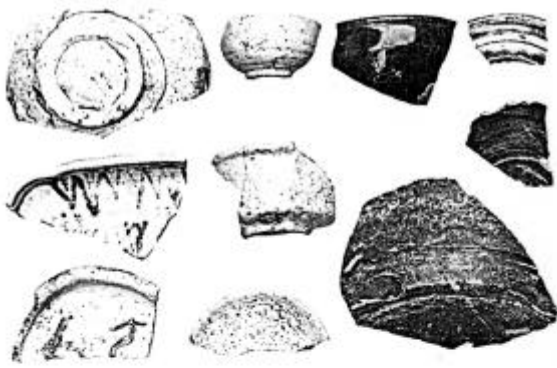
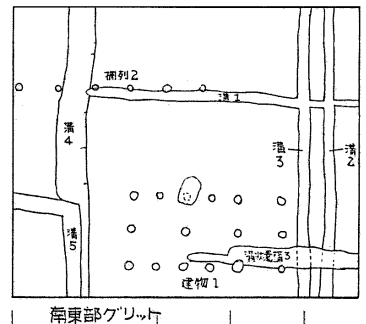
まとめ

今回の発掘調査によつて、不鮮明であつた金森出雲遺跡の一端が明らかになり、又桃山時代～江戸時代初頭の大名家敷跡に関しても、得られた成果はさきわめて大きいものがある。この地点の調査成果のみでは結論を出せない問題も多いが、伏見の歴史を解明していくうえで重要な資料となるであろう。

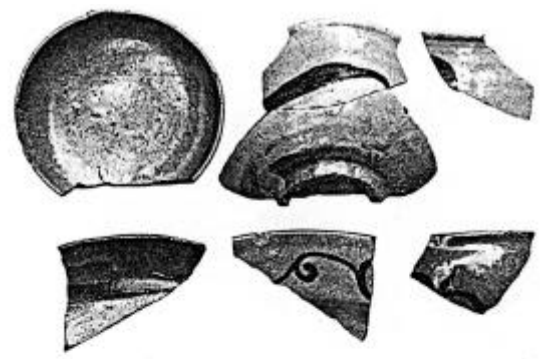
主要遺構配置図



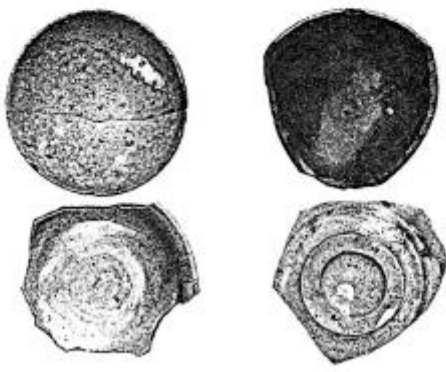
*遺構Noはそれぞれのグリットで独立して進出したものである。



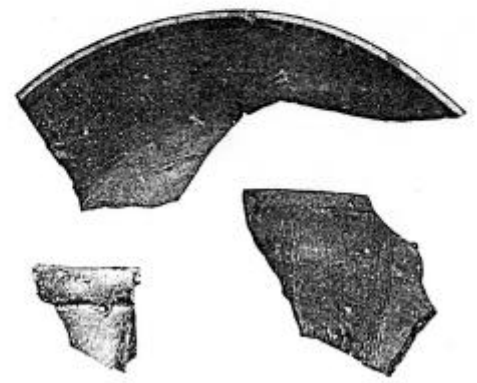
国産施釉陶器 碗・皿 (瀬戸・美濃)



国産施釉陶器 碗・皿 (磨津)



国産施釉陶器 碗・皿 (磨津)

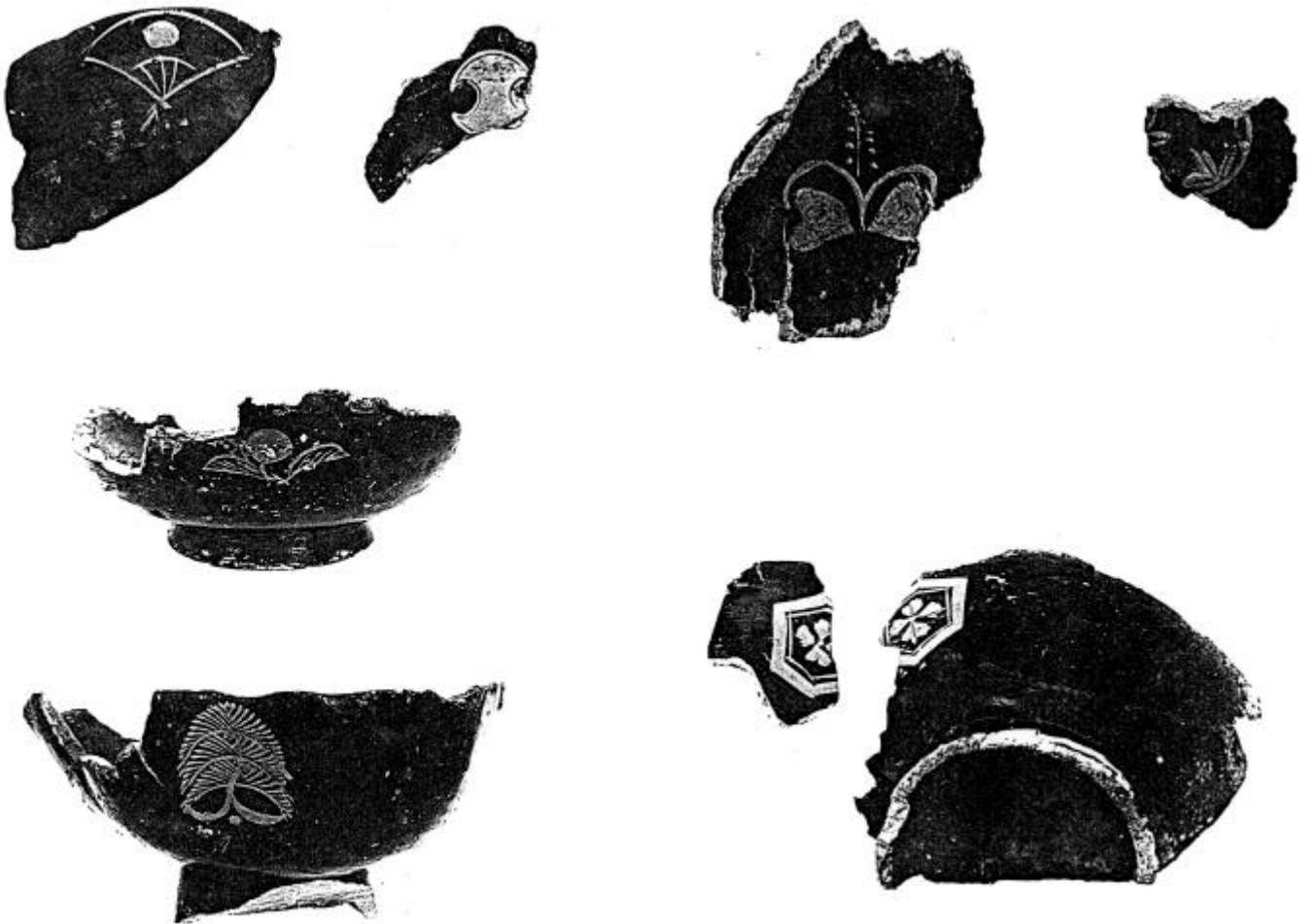


焼締め陶器 水指・櫛鉢 (備前・信楽)



木簡(付け札)

軒丸瓦・軒平瓦・金箔軒平瓦・刀



漆器椀

漆器椀